

## 日米首脳会談についての声明

# 無法なトランプ政権への追随を露わにした 世界に恥ずべき高市首相を厳しく批判する

2026年3月20日 日本平和委員会

一、高市早苗首相は3月20日（日本時間）、トランプ大統領と日米首脳会談を行った。私たちはこの会談に先立って、日本政府に対し、トランプ政権のイラン攻撃が国連憲章と国際法に違反する侵略であることを明確にし、ただちに中止することを求めること、また、この攻撃に「事前協議」もなしに在日米軍部隊が攻撃・参加していることが確認されているが、これを直ちに中止することを求めること、さらに、ホルムズ海峡への護衛艦の派遣など、トランプ政権が求める無法な戦争への協力を断固として拒否することを求めてきた。

一、ところが、高市首相は首脳会談で、アメリカのイラン攻撃を国連憲章違反と一切批判することなく、トランプ大統領を「世界中に平和と繁栄をもたらせるのはドナルドだけ」などと、口を極めて持ち上げ、「諸外国に働きかけてしっかり応援したい」と、全面的にトランプ政権を応援する驚くべき姿勢を示した。

トランプ大統領が首脳会談の場でイラン攻撃は「奇襲攻撃だった」と明言したように、これが国連憲章違反の先制攻撃であることは明白である。これをはじめ、「国際法は私には関係ない」と公言して国際法違反の蛮行の数々を繰り返すトランプ大統領に追随し、媚びへつらう高市首相の態度は、世界でも異常であり、世界に恥をさらすものと言わなければならない。何よりもそれは、戦争のない世界をつくる先頭に立つことを誓った日本国憲法を根本から蹂躪する、許しがたい態度である。

一、トランプ大統領は日米首脳会談で、「日本からは多大な支援があり関係も良好だ。日本は十分に取り組んでいると思う。NATOとは違う」「日本が役割を果たすことだ。我々は日本に4万5千人の兵士を駐留させ、多額の資金を投じている。日本への石油の90%以上は（ホルムズ）海峡を通ると聞いており、それは我々に協力する大きな理由となる。我々は1%未満だが、他国のために海峡を守っている。NATOは以前よりは協力的だが、もう手遅れだ」と述べ、露骨にこの無法な戦争への日本の軍事的貢献を求めてきた。

これに対し外務省の日米首脳会談の発表文は、「両首脳は、エネルギー安全保障の観点を含め、ホルムズ海峡を含む中東地域の平和と安定に向けて、引き続き、日米間で緊密に意思疎通を続けていくことで一致しました」と、軍事的支援を検討する姿勢をにじませている。私たちは、改めてこの無法な戦争への一切の協力を拒否することを、強く求めるものである。

一、日米首脳会談で両首脳は、トランプ政権と「日米同盟をさらなる高みに引き上げていくことを確認し」「日米同盟の抑止力・対処力を一層強化していくべく、ミサイルの共同開発・共同生産を含む幅広い安全保障協力を進めていくことで一致し」たとしている（外務省発表文）。これをテコに、米政府が公然と求めている軍事費GDP比5%（30兆円）規模めざす大軍拡の推進などの日米軍事同盟強化が、いっそう強力に推し進められる危険がある。これは無法なトランプ政権と一体に戦争する態勢づくりを進める、危険極まりない道である。

私たちは、このような動きを断じて許さず、憲法9条を活かして、核兵器のない国連憲章に基づく平和なアジアと世界の創出めざし貢献する日本を実現するため奮闘する決意を、ここに表明するものである。